

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 滋賀県立陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】 (<https://www.sccp.jp/exhibitions/18882/>)

6月15日(土)～9月1日(日)

特別企画展: 「シリーズ・やきもの×グルメ I -シェフイチ推しの、Shigaraki Style」展
料理の世界から信楽焼の魅力に迫る展覧会。“うつわ”の研究が進化した近代以降、信楽では多くの工房や製陶所が独自の“Shigaraki Style”を追求してきました。とくに昨今の食事への意識の高まりは料理と生活の関係に大きな変化をもたらし、“うつわ”へのこだわりは家庭の食卓にまで広がりつつあります。本展では、料理の世界で今注目されている信楽の“うつわ”を中心に、双方の関係を探りその魅力に迫ります。



2. 出光美術館【東京・千代田区】 (<https://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

7月20日(土)～8月25日(日)

企画展: 出光美術館の軌跡 ここから、さきへⅢ 日本・東洋陶磁の精華—コレクションの深まり



1910年代、事業拡大のため中国東北地方へ出張を行っていた出光佐三(1885～1981)は、その地で中国陶磁と出会います。それは佐三の心を和ませ、のちの陶磁器や工芸品の本格的な蒐集へと繋がります。さらに、国際的にも著名な学者・小山富士夫(1900～75)と三上次男(1907～87)の両先生の助言を受けつつ、陶磁器コレクションを充実させました。本展では、中国陶磁をはじめ、日本・東洋の陶磁や漆器・青銅器などの美術工芸品をお楽しみください。

3. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】 (<https://sunritz-hattori-museum.or.jp/pages/238/>)

7月31日(水)～10月27日(日)

特別企画展: やきものの景色 窯のなかで生まれる色と模様

やきものは、成形した素地を加熱する「焼成」という工程を経てつくられます。うつわを焼き締めることで強度や硬度を高めることができるため、焼成は世界各地で古くから行われていました。焼成の際に欠かせない存在が窯です。窯のなかかうつわを並べてじっくりと時間を掛けて高温で焼いていきますが、炎の具合や土や釉薬に含まれている鉱物、燃料の性質によって、思いもよらない色や模様が生まれることがあります。日本ではそれらを「景色」と呼び、やきものの見どころとなっています。本展では、うつわの下半分が焼成中に黒く変化したことから雪を頂く富士山を連想して銘がつけられた国宝「白楽茶碗 銘 不二山」をはじめ、薪の灰が降りかかってガラス化し、胡麻のような模様ができた備前の徳利、白色の長石が浮き出た信楽の香合などを展示いたします。



4. 安城市歴史博物館【愛知・安城】 (<https://artscape.jp/exhibitions/14497/>)

7月13日(土)～9月8日(日)

特別展: 「ごろごろまるまるネコづくし」 ※陶磁器関係の展覧会ではありません

人間の身近なパートナーとして犬と猫はよく知られています。日本では猫は「源氏物語」にみられるように宮中で寵愛され、近世になると肉筆画や浮世絵の題材として数多く登場するようになります。大の猫好きで知られる浮世絵師歌川国芳の周りには常に猫がいました。本展では、猫の浮世絵を中心に、猫の生態や人と猫との関係に着目し紹介します。単に「かわいい」だけでない、猫の奥深い魅力を知ってみませんか。



5. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】(https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/exhibition-event)

7月13日(土)～12月22日(日)

令和6年度 多治見市美濃焼ミュージアム企画展:

「多治見市無形文化財指定記念 藏珍窯 一寫しと赤絵のうつわ展」
 本展覧会は、令和5年度に株式会社藏珍窯(ぞうほうがま)が多治見市無形文化財 上絵付(うわえつけ)に指定されたことを記念し、藏珍窯の手描きによる絵付け技術から生まれる器とその仕事を紹介する展覧会です。現会長の小泉藏珍は、1970年に多治見市内で株式会社藏珍窯を操業しました。神主の家系で育つ中で身を立てる実業も必要と考え、代々続く幸兵衛窯で修業し、絵付けの技術を学びました。「食卓で小さな幸せを提供したい」と量産品と高価な作品の中間を狙った器づくりを目指して、手描きによる上絵付陶磁器を50年以上にわたり製造しています。上絵付の中でも赤を主体に、黄色や緑色など2～3色を加えた「赤絵」という絵付け技術を得意とし、原材料となる弁柄(べんがら)を約1000日間摺り続けることで生まれる、濃淡の美しい伸びやかな絵付け製品が代表的です。近年、転写技術が発展し絵付け技術者が減る中、職人への技術の継承を続けながら、新たな赤絵技術を生み出したことなどが評価されました。その他、土から絵付けまで焼物技術全般の向上を図るため、野々村仁清や尾形乾山といった日本文化を代表する古陶器や屏風画を写した陶磁作品の制作を行っています。本展では、令和5年度に多治見市に寄贈を受けた、尾形光琳の紅白梅図屏風を俎皿(まないたざら)に写した大作の紅白梅図寫俎皿を含む全9点をはじめ、藏珍窯が50年以上続けてきた絵付けの器をご覧頂ける展覧会です。手仕事による職人の技を是非ご覧ください。



<多治見市美濃焼ミュージアム イベント>

「夏の子どもイベント ねりねりペタペタ 美濃の粘土をさわってみよう！」

子どもイベントを開催している施設は多いですが、障害を持った子供と保護者にとってはハードルが高く、参加しづらいものもあると感じます。今回は、そのようなお子様を対象に参加しやすいイベントを作っちゃおう！という企画です。いずれは垣根なく、本当の意味で「誰でも参加できる子ども向けイベント」を開催し、「美濃焼ミュージアムだからできる体験」を提供していきたいと思えます。また、今回は保護者にも「子供と一緒にミュージアムへ行く」という経験とともに希望者には呈茶サービスを実施し、ゆっくり過ごす時間を提供します。イベントは、子供と一緒に粘土を「触って、体験すること」自体を目的とし、作品の完成は目指しません。粘土の種類は3種類準備し、個性にあわせて対応できるようにします。(ある程度作品が作れる子ども用にテーマも準備。基本は自由に創作)体験しているところを職員が写真に納めプレゼントし、思い出を持ち帰っていただきます。



日時: 8月25日(日) 10:00～11:30

場所: 多治見市美濃焼ミュージアム(多治見市東町1-9-27)研修室 TEL: 0572-23-191

対象: 発達に不安がある、もしくは障害者手帳をお持ちの3歳以上の未就学児とその家族

募集人数: 6組程度

料金: 材料費500円+観覧料(大人320円・高校生以下無料)

※観覧料については、障がい者手帳を持っている方とその付き添い1名は無料

※呈茶500～800円(希望者のみ。事前に確認・申し込み要)

協力: 社会福祉法人陶技学園・美濃粘土株式会社